

『新しい学習指導要領』に向けた  
**市内小・中学校の取り組み**

『総合的な学習の時間』に向けた取り組みについて

今年度から全面实施となった新しい学習指導要領では、子どもたち一人ひとりに、『ゆとり』の中で『生きる力』を育てることを目指しています。

今回創設された『総合的な学習の時間』は、そうしたねらいを達成するために、各学校が創意工夫し、各教科で習得したさまざまな知識を総合的に働かせ、いろいろな問題解決に取り組んでいくことを目指しています。

総合的な学習の時間では、知識を教え込む授業ではなく、情報の集め方や調べ方、まとめ方、報告・発表、討論の仕方などの『学び方』や、ものの考え方の習得を重視し、子ども自らが進んで学習に取り組むこととなります。このような教育を進めていくためには、学校はこれまでの学校中心の教育観から脱皮し、家庭や地域社会と一体となった開かれた教育の推進が求められます。

市教育委員会では、このような

市内小・中学校における  
**『総合的な学習の時間』の取り組み**

登別温泉小学校	情報社会に対応して、パソコン操作やその技術を取得し、授業や他の活動への活用を図る学習に取り組めます。
登別小学校	豊かな自然環境を生かし、地域を『屋根のない学校』として、地域の方々とのふれあいを通じ、『ふるさと登別』を学びます。
幌別東小学校	地域のお年寄りとの集会活動や学校園での栽培活動などを通じ、交流の促進を図る学習をします。
幌別小学校	価値ある体験を通して、心でじっくり考える『いのちの学習』に取り組めます。
幌別西小学校	環境（3年生）、地域文化（4年生）、福祉（5年生）、国際理解（6年生）をテーマとする学習に取り組めます。
富岸小学校	環境や福祉に関する教材を通して、子どもに興味・関心を持たせる実践活動に取り組めます。
青葉小学校	『青葉の森』の植物や野鳥の観察などを通して、自然環境の大切さとそれを守る学習をします。
若草小学校	地域の高齢者の方々から、得意としている技や知恵を学びながら、交流を図っていく学習を進めます。
鷺別小学校	自然に親しみ、自然環境の大切さを学びながら、身近な人びとと豊かな交流を図る学習に取り組めます。
登別温泉中学校	観光登別温泉再発見のため、温泉の人や自然、地域素材に積極的に関わり、『ふるさと未知への大紀行』を展開し、ふるさと学習を深めます。
登別中学校	『生き方に触れ』（1年生環境・福祉）、『生き方を探り』（2年生職場訪問・実習）、『生き方を見つめる』（3年生自らの課題を解決）の学習をします。
幌別中学校	子どもたちの思いや願いが生かされるようないろいろな体験学習を取り入れ、広く視野を広げていく学習をします。
西陵中学校	幌別川河川敷での自然体験（1年生）、ボランティア体験（2年生）、職場体験（3年生）などの学習に取り組めます。
緑陽中学校	点字学習、視聴覚障害をもつ方との交流、老人介護の仕方、手話など福祉教育に関する学習に取り組めます。
鷺別中学校	いろいろな人びととの出会いを大切に、交流していくことで、『自分の生き方』を見いだす学習に取り組めます。

『総合的な学習の時間』の趣旨を踏まえ、平成12年度・13年度の移行期の段階から各学校が適切に実施できるように必要な支援を積極的に行ってきました。

具体的には、平成11年6月、『新しい教育をつくる21懇話会』を設置しました。

これは、21世紀に生きる子どもたちのために、これからの教育はどうあればよいか、みんなで知恵を出し合い、登別らしい素材を生かしなが

ら、地域ぐるみで子どもの教育を支援するとともに、『総合的な学習の時間』の円滑な導入を図ることを目的としたものです。

懇話会では、5回にわたる意見交換のほか、教育講演会、先進校の視察、広報紙への掲載、資料の発行などをを行い、平成12年3月には、市内の各種ボランティア団体や自然・社会体験などに協力していただける団体・関係機関を一覧にまとめた冊子（資料）を作成し、各小・中学校に

配布し、活用してもらいました。

本格実施にあたり、各学校とも移行期の実践を踏まえて、さらに創意工夫した取り組みを進めており、市教育委員会では、より内容を充実して実施できるよう支援してまいります。特に、この4月25日にオープンした登別市ネイチャーセンター『ふおれすと鉱山』は、子どもたちの自然体験学習の場として、『総合的な学習の時間』の中でも有効に活用できるものと期待されています。